

## 令和6年度山形県総合政策審議会における主な意見等

日時：令和7年2月10日（月）

13：30～16：00

場所：山形県庁2階 講堂

### ○審議事項

第4次山形県総合発展計画 後期実施計画（案）について〔資料1～4〕

### ○議事概要

山形県総合政策審議会から提言いただいた「第4次山形県総合発展計画「次期実施計画」の策定に向けた基本的考え方」を踏まえて整理した「後期実施計画（案）」について、修正の指摘や計画を推進していく上で力を入れるべきポイント、留意することなどについて幅広く意見をいただいた。今回の意見やパブリックコメント等を踏まえて、後期実施計画を策定する。

各委員の意見要旨は以下のとおり。

### <各委員の意見要旨> ※発言順

#### 【鈴木委員】

- ・ 後期実施計画が、県民や企業、経済団体などが未来への希望や明るいビジョンを共有し、危機感も併せ持ちながら、活動するための拠り所になることを願う。共感と行動を呼び起こすため、県民への分かりやすい周知が必要であり、SNSや「提言の広場」などの活用を考えていただきたい。
- ・ 重点テーマ1「若者・女性をはじめ多様な人々を引きつける地域づくり」に関して、企業が学校教育に関わる機会を増やすことで、小中高生の県内企業への理解が促進され、郷土愛を育むこともできると考える。例えば、インターンシップの充実や企業関係者による仕事や企業の意義の講演、SDGsや地域貢献活動、健康経営について説明する機会を設けることで、企業課題と社会課題、その解決に向けた企業の具体的な取組を理解していただける。こうした教育活動を、経済同友会をはじめ各団体が提唱し、講師やテーマなどのデータベースをつくることなどにより、組織的に行えるのではないかと考える。
- ・ 「ふるさと山形移住・定住推進センター」では、移住者や地域活動の推進者、有識者などからのご意見・アドバイスをいただく、移住・定住推進懇談会を開催している。この懇談会で、高度な技術や知識、経験を持った高度人材を呼び込むことの重要性について意見があった。高度人材やデジタル人材がますます必要となる中、山形県ではこういった人材が必要だとアピールしてはどうか。
- ・ 重点テーマ2「産業人材の育成及び多様な人材の就労の促進」に関して、企業における女性管理職登用割合の達成が重要である。目標を掲げて計画的に進めている企業は多くない。キャリアアップのための面接や指導、先輩との話合い、女性活躍のための部署の新

設、企業の目標設定を働きかけてはどうか。また、経営者や経営幹部の意識改革を図り、さらに働き方改革を推進する必要がある。

- ・ 後期実施計画が県の予算編成の指針となるべきビジョンであるばかりでなく、県内企業の経営計画や経済団体の活動計画作成のためのビジョンであってほしい。愛称やシンボルマークを作るなどして親近感をアピールするのも一案だと思う。

### 【横尾委員】

- ・ 県内の方のみならず、県外及び海外の方との共生というのが重要な視点である。県内の人が県外、海外に出て外を知るといふことと、県外や海外の人を中に引き入れるという両面での共生を追求していただきたい。
- ・ 今回、政策横断で重要な取組みをパッケージ化した重点テーマについては、非常に良いアイデアだと思うが、重点テーマと政策別に記載している内容との関係性については、必ずしも分かりやすくはない。資料の概要版では重点テーマの説明が先にあるが、本体版では最後に記載がある。外への分かりやすさという点において、工夫していただきたい。
- ・ 取組みの担当部署を示したことは非常にいいと思う。ぜひ縦割りにならないようにということと、何が優先か部局間で話し合い、実施にあたってはメリハリをつけることが大事。
- ・ 政府が掲げる地方創生 2.0 を強く意識していただきたい。施政方針演説においても地方創生 2.0 が 3 割を占めるなど、非常に重視されている。今回の地方創生 2.0 は地域の持つ潜在力を引き出してソフトの魅力を中心に新しい人の流れを生み出すということで、この実施計画でも優先的に取り組んでいただきたい。

### 【伊藤委員】

- ・ 基礎自治体や各総合支庁との密な連携体制を期待していると伝えてきたところだが、今一度、山形県の目指す「共創」とは、どのような状態・行動を目指すのかを明示いただきたいと思う。また、既にあるコンソーシアム等の体制において、例年どおりのメンバーになっていないか、改善の余地がないかを見つめ直していただき、課題解決に対してやる気に満ち溢れた個人や団体、企業がその体制に入り、力を発揮できるよう、そしてしっかりと評価できるようなバックアップをお願いしたい。
- ・ 若者・女性について、高校生への取組みを盛り込んでいただいたが、ぜひもっと前に進めて、小中学生への取組みにも広げていただきたい。また、若者の声を聴く施策が大変多くあるが、聴くだけでなく、それを聴いてどうアクションを起こすのか、どういう回答ができるのか、そこまで考えていただきたい。
- ・ 婚姻率が全国 45 位というデータに驚愕している。子育てどころか、結婚して生活するイメージが持てていないのが現実ではないか。県内企業の複数社で女性のキャリア面談をした際に、独身の方々が一様に話されていたのは、結婚・出産のイメージができないということであった。出産のタイミングを考え、仕事と出産を同時にできるか疑問視・不安視

している方が大変多かった。

- 2002年にハーバードビジネスレビューに掲載された論文の中で、アメリカ社会で成功している年収1,000万円以上の女性の多くが子どもを望んでいるにも関わらず、約半数に子どもがおらず、出産適齢期を過ぎたキャリア女性たちはそのことを後悔しているという衝撃的な論文があるが、この論文と同じことが山形県に起きているような感覚を覚える。
- これを変えていくために、女性のキャリア支援という少し曖昧な言葉でなく、チャイルドペナルティとも言われるような、子どもを持ったことで起こり得る賃金格差や女性へ家事が偏ることによる労働時間の短縮、産休・育休の取得による年収減少などへの対応もぜひお願いしたい。
- 人口ビジョンの貢献寿命に関するコラムについて興味深く拝見した。10年もすれば氷河期世代が60代に入る。ボリュームゾーンであり、まだまだ活躍いただけるように、現役世代が幸せを感じる山形であってほしいと思う。県という公的機関だからこそできることを期待したい。

#### 【上野委員】

- 医療に関して、「地域医療構想」により、行政と医師会、教育機関、病院が問題点を共有できており、医師の養成や数については目途が立ってきている状況になっていると思う。ただし、医師や診療科の偏在に関しては、まだまだ遅れている。特に高齢者が増えて若い人がいないというこれからの時代において、診療科がどうあるべきかについては、課題がまだ積み残されている。
- 医師以外の医療職、看護師、薬剤師の不足に関しては、まだ目処が立っていない状況のため、行政を巻き込んでの対応が必要だと思う。他の職域と同様だが、どう山形の良さをわかってもらうか、彼ら彼女らがプロフェッショナルとしての力をどう伸ばしていけるか、あるいは暮らし向きはどうか、そういったことがデータとして見にくいのが、山形が選ばれにくい状況につながっていると思う。我々の持つデータは限られるので、行政が出せるデータを広く公開していくことで、欠点も見えてくると思う。
- 横串を通すことは非常に大切である。山形大学では、重粒子線という先進的な機械を様々なステークホルダーの力添えで整備し、稼動は非常に順調に上がっている。県外からの来院も多いが、例えば、昨日からの大雪では治療の中止、あるいは治療後に帰れないという事態になってしまう。1人遅れることで他の患者も遅れてしまい、命にも関わる。安定的なインフラの構築も、ぜひ全県的な取組みとして一緒に考えていきたい。
- デジタルに関して、この審議会に大雪で来られない方はオンラインを活用して参加することができている。医療も同じで、その場にいなくてもいいのであれば、デジタルに置き換えていくといった取組みを今後さらに加速しなくてはならない。こちらについても、行政と医療界が一緒に取り組む必要がある。
- 若者に対して、単にここに残れと言っても残らない。留まるだけの理由が必要である。

納得させるにはデータが有効だが、そのデータが圧倒的に見えにくい。例えば良いデータでは投票率が1番高いとか、悪いデータはガソリン価格が全国3番目に高いなどというものは見えるが、ガソリン価格が3番目に高いのに、山形県民はどういった理由で住んでいるのか、そういったことが見えてこない。そういったことが若者に見えるよう、彼らが納得できるようなデータを作って、積極的に生かしていただきたい。

- データのほか、県が何を考えているか、様々な分野に対してどのように考えているかをどんどん発信する必要があると思う。黙っていても理解されないので、様々なメディアを活用し、訴えかけていただきたい。「挑戦」という姿勢を掲げている以上、山形県として、どういう考えで、何をどうチャレンジするかを県民一人ひとりがわかるようにアピールしていただきたい。

### 【大武委員】

- 後期実施計画（案）について賛成である。オール山形の一員として、この計画の実践に県とともに取り組んでいきたいと思う。
- 水稻の新品種142号を取り上げていただき、高温で米作りに苦勞している生産現場にとって大変心強い。米や果樹、園芸も、品種開発は継続的に行う必要があり、高温耐性や良食味、高収量といった先々を見越した取組みをお願いしたい。
- 米の価格が高騰しているほか、水田活用の直接支払金の見直しの報道があり、米作りは国の政策に左右される部分もあるが、西日本の生産力が落ちており、主産地である本県が増産に舵を切っていかなければならないと考えている。需給と価格の安定は生産者と消費者にとって重要であり、県とともに、水田農業の方向性について、先を見越した議論を進めていきたいと考えている。
- 人口減少について、資料を拝見し改めて驚いている。関係人口、移住・定住の増加への寄与や、外国人材や高齢者、障がい者の活躍等、農業の活用が非常に有効である。

### 【鹿野委員】

- 人口減少は実施計画に通底する最重要課題であり、人口減少を踏まえた県づくりを考えていく必要がある。昨今の報道で、都市と地方の初任給の格差を実感した。若者をはじめとする人材の県外流出を抑制し、地域産業の持続性を確保するためにも、企業の生産性向上や付加価値向上に資する支援、地域の中小企業の成長発展を後押しする有効な施策の展開を引き続きお願いしたい。
- 人材不足について、私の所属する建設業界では、大工をはじめ設備工、いわゆる職人と言われる方々の人手不足が加速している。この状況が続けば、大規模災害への対応はもとより、生活インフラの維持さえ困難になる。今回の計画には、高度デジタル人材やプロフェッショナル人材など、様々な人材育成が掲げられているが、県民の安全・安心な暮らしの実現には、職人の育成、教育も重要なテーマであると考えている。

- ・ 人材不足への対応として、外国人材の活用も重要な選択肢である。本会の会員にも、技能実習生を受け入れている組合があり、今後、外国人材が増えていくと予想される。このような中、外国の方々に本県で働くことの魅力をPRするとともに、外国人材の子供の教育環境の整備に取り組むことにより、家族を帯同しての移住・定住が期待できる。
- ・ 重点テーマ7「大規模災害等に対応した防災力の向上」について、本会では頻発・激甚化する災害への対策として、会員組合のBCP（事業継続計画）の策定を支援している。災害からの復旧時に必要な人員、設備の融通や車両・倉庫の相互利用などを想定し、連携事業継続力強化計画の申請を支援しているほか、他県と同業種の組合と連携したBCP策定に向けて協議している組合もあり、本会としても引き続き積極的に支援していきたい。
- ・ 人口減少は本県だけでなく、日本全体で避けられない問題であるが、今後の人口減少を見据えた社会基盤の維持と県づくりについて、引き続き検討を重ねるとともに、今回の実施計画に掲げた各種取組みの推進をお願いしたい。

### 【河野委員】

- ・ 山形県の観光の魅力を前面に押し出す挑戦をぜひ行っていただきたい。私は京都出身だが、山形は京都に負けない大きな魅力があると確信している。農業をはじめ、畜産業、漁業、壮大な自然、多くの温泉、蔵王でのスキーなど、国内のみならず海外から誘客できる大きな魅力がある。そのような中、SNSやホームページなど、今時の発信を意識して若者、インバウンドの誘客を早急かつ継続的に行えるような仕組みを立ち上げていただきたい。
- ・ 再生可能エネルギーについてネガティブな報道も見受けられるが、日本のエネルギー問題、あるいはエネルギーセキュリティの観点から、洋上風力発電の増大は待ったなしの状況である。
- ・ 2023年の化石燃料の輸入額はおよそ27兆円で、国民一人当たり20万円以上を支払っている計算になる。この輸入額の1%でも日本に還元できれば、国内でお金が循環する。また、エネルギーを使用する際に30%以上のエネルギーロスが発生しており、輸入するだけでもロスが発生してしまう。エネルギーの自立化に向け、再生可能エネルギーに関する取組みを粛々と進めていただきたい。

### 【佐藤委員】

- ・ 山形という土地柄は冒険的で、子どもたちにとって非常に魅力的な環境がある。私は仙台市の遊び場展開事業「あそびばせんだい」という活動をしているが、仙台の親子で、山形に行く方は多かった。そうしたところで山形と仙台のコラボレーションも考えられるのではないかと。また、滞在型の道の駅など、子どもたちが山形に滞在して魅力を享受できるような環境の整備も大切ではないかと。
- ・ 中高生と大学生との交流の強化に関して、自身も米沢興譲館高校と仙台第三高校で、ま

ちづくりや景観設計分野でSSH事業のサポートをしている。こうした交流を通じて、県外や地元から山形の大学に興味を持って進学する学生が増えるとよい。仙台から来た学生が、山形県内の企業に魅力を感じて就職するという流れもあるので、今後さらに山形の良さを学生たちに伝えていきたい。

- ・ 祖父母が山形出身であるなど山形に所縁のある方や、国内外の教育旅行等にも着目しながら、山形の環境を活かした「観光+学び」ができるとうい。
- ・ まちづくりや空き家対策などに学生たちと取り組んでいるが、事業家の存在は欠かせない。大学生とともに、高校生にとって身近になってくれる事業家のような存在が、地域に人を惹きつけるきっかけになりうる。
- ・ 大規模災害対策に関連し、東日本大震災のとき仙台で被災したが、山形からの支援は非常に大きかった。山形は支援の基地にもなった。米沢では大規模災害に向けて重機を扱うグループの形成も行われているが、そうした大規模災害に対しての山形県の方々の動きもある。また、昨今起こったインフラの大規模損壊といったことなども視野に入れなければならない。そうしたとき、山形県はエネルギーとインフラ整備に強みがあると考え。分散型、自立型のエネルギーと、地域に適したインフラの再整備方法を生み出すことで、やがてそれが全国のスタンダードになり、人口減少社会における一つの道しるべになるとよい。

#### 【武田委員】

- ・ これまでの分野別研究会や審議会での多様な分野・意見をあまり落とさずつなぎ合わせながら計画（案）を整理いただいた。さらにもう一步踏み込んでほしいと各委員が思われるところもあるかと思うが、これまでの計画と比べて変わったところは多い。特に、ソフト面での地方創生に関して、子ども、地域コミュニティ、多文化共生など、前回からさらに一步進めようとする計画内容になっている。
- ・ この計画の推進は、行政だけではとても困難であり、いかにいろいろな人と一緒に成し遂げられるか、まさに「共創」が課題となる。行政任せではなく、1人でも多くの人自分事として課題や取組みを考え、行動を起こせるかが大事。その観点から計画にある目標指標は非常に重要。「共生」「挑戦」に関する指標が少しわかりにくいいため、わかりやすい指標、あるいは見せ方を検討する必要があると考える。
- ・ 例えば「共生」に関して、重点テーマ3「地域社会・産業経済の国際化の推進」で、目標指標に観光消費額、輸出額があるが、外国人との交流や多文化への関心など、「共生」に関する人の意識変容や成長を促していけるような指標があってもよいと感じた。

#### 【玉谷委員】

- ・ 県民に寄り添い山形の力を発揮できる計画になっていると考える。
- ・ 自社では、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（農水省）に応募し、山形でとれる食

材をフル活用して全世界に広めるビジネスが評価され、優良事例として選定された。首相官邸において、選定された事業者、地区を集めた交流会が開かれたが、そこで首相は地方について強く仰っており、もう1度地方から新しい日本をつくりたいと思っているようだった。「日本はまだまだ地方に農林水産業やサービス業の伸びる余地がある」という言葉をいただいたところ。日本のあり方を考える上で地域のあり方が大切になってくるとのこと、山形から挑む地方創生2.0に期待する。

- ・ 先月、台湾で山形県物産展を行ってきたところ、つや姫（2kg 6,000円ほど）が飛ぶように売れていた。現地の日本人に訊いたところ、台湾では香り米が多く、美味しい米は物産展でしか手に入らないとのこと。確実に山形県の農産物、加工品へのニーズはあるので、販売・輸出の拡大に早めにテコ入れしてほしい。
- ・ また、この物産展のお客様から、出羽三山に行ったことをきっかけに、山形の物を新たに買って他の人にも分けたいという話もあった。そこで、インバウンド対応については、国内、山形県内だけではなく、帰国後に現地で山形のものと同じように結び付けられるような取り組みがあると、観光と輸出の循環を生むことができるのではないかと。
- ・ ラーメン・そばへの注力はとても嬉しく思う。2月に「おいしい山形商談会 in 大阪」に参加し、「ラーメン県そば王国やまがた」のロゴを掲げたブースを展開したところ、「山形県はそばが有名なのか」という声が多く、まだ「山形県＝そば」とは想起されない現状があった。知ってもらわなければ無いものと同じことであり、広く知ってもらう取り組みが大切。
- ・ 山形県の強みである農業と観光が掛け合わされ、真の豊かさを感じられる山形らしい計画になってほしい。
- ・ 鈴木委員から、計画について周知してほしいというお話があったが、その通りだと考える。山形の未来がわくわくすると言われるようなこの計画を皆様に知ってもらいたい。

### 【丹治委員】

- ・ 人口減少は、何か対策をしてもすぐに結果が出るものではない。人口が減るから悪い、ダメというのではなく、少ない中でもどう暮らしていくか、暮らしやすくしていくかを考えて工夫することが大事ではないか。
- ・ 子どものそばにいる大人の影響は大きい。山形には買い物をするところも遊ぶところも何もないといったことを、子どもの身近にいる大人が言うと、子どもはそのまま受け取り、ネガティブな言葉だけが残ってしまうので、大人の意識の変容も必要。子どもの近くにいる大人が、懸命に働いていたり、趣味を楽しんでいたり、いきいきと暮らしている姿を見せることが大事。
- ・ Uターンや移住者に関して、地元に戻る、山形を選んでくれるのは嬉しいことであり、支援も大事だが、元々暮らしている人たちも区別することなく大切にしていくような仕組みも必要ではないか。

- ・ 計画を進める上で指標は大事だが、数字だけを追ってしまい、手段が目的になるようなことがあってはならない。何のために取り組むのか確認しながら進めていくことが大事。
- ・ この計画は、誰かがやってくれるというのではなく、県民一人ひとり、みんなで取り組んでいくことが大事。そのためにもわかりやすさは重要で、更にそこからどう行動につなげていくかという流れも必要。

### 【長谷川委員】

- ・ 後期実施計画について、次の5年間に重点的に取り組んでいくことは間違っておらず、よくできている。限りある行政資源、予算のもと、より実効性が高い取組みを展開していくため、メリハリのある計画になっている。
- ・ 喫緊の課題は災害からの復旧・復興。重点テーマ7「大規模災害等に対応した地域防災力の向上」があるように、県民の安全・安心、暮らしを守っていかなければならない。行政が県民を守ってくれるのか試されているとも言える。
- ・ 最優先課題が人口減少となっているが、構造的な問題であり簡単に解決できない。外国人労働者の積極的な受け入れも考えられるし、議論の深化が求められる。
- ・ 半導体に関して、十分に協力してきているが最終の答えが見えない。あらかじめ想定したスケジュール通りにはいかないもので、具体的な問題が出る都度、対応を考えていくべき。

### 【平間委員】

- ・ コロナ禍を経てデジタル化が進み、生活の利便性が向上し、5年前には考えられなかったことが実現している。今後5年間でさらに加速度的に社会が大きく変わっていくのではないかと期待する。それと同時に、人権や多様性の尊重、包摂性、寛容性を土台に共生社会を目指していくというのは、いつの時代も変わらないこと。人と人とのつながりのある山形の魅力がますます際立ってくるのではないかと。
- ・ 政策を進める上で、「共生」「共創」×「挑戦」は重要なキーワード。これらのキーワードと考え方が県民にもわかりやすく示され浸透することで、県が一体となって計画を進めていくことができると考える。
- ・ 計画全体として、性別や年齢、障がいの有無、国籍にとらわれない、多様性と包摂性、希望、活力が感じられるものになっている。政策や事業の展開に当たっては、子ども、若者、女性、高齢者、障がい者、外国の方、多様な人々が参画して、誰もが当事者意識を持ち、当事者の視点で考えていくことが大事であり、意見を言える機会を多く設けてほしい。
- ・ 障がい者＝保護的な社会的弱者、ということではなく、多様な特性があり、配慮を必要とする人であり、チャレンジする機会・環境があれば可能性や力を発揮することができる、役割があり社会に貢献できる人である、という視点に変わってほしい。障がい者雇用についても、貴重な労働力・戦力として働くことができる人という視点に変わることで、さらに就労が促進されると考える。

- ・ 現行計画で、「障がい者の実雇用率の全国順位」がK P Iに設定されていたが、後期の計画で「障がい者実雇用率」に変更されるのは非常に良い。全国順位ではなかなか伸びていかない状況もあるかと思うが、昨年12月の山形労働局の発表では、障がい者実雇用率が過去最高に伸びている。当事者は関係者の頑張りが見えるとモチベーションが上がり励みになるので表し方は重要。また、雇用率だけではなく、定着率や満足度、充足感なども相対的に判断していくことが大事。
- ・ 一つの分野だけでなく、あらゆる分野で横断的に施策を展開していくことで、課題解決や新たな事業展開につながっていくと期待できる。
- ・ 地域での高齢者・障がい者等の安心な暮らしを支えるサービス提供体制について、人手不足が深刻化しており、サービス提供制度があっても提供が困難な状況が続いている。多様な人材を活用していく工夫が大事と考える。
- ・ 幸福の実感や生活の質をどう可視化していくかについては後期実施計画を進めていく中で引き続き研究していただきたい。データとして示されることでより実感できるようになるのではないかな。

#### 【藤井委員】

- ・ デジタルというと、顔が見えないというか、何をするのか急に不明確になる側面がある。これらデジタルという道具が使われた先に具体的にどうなるか補足する。
- ・ デジタルは日本語で言うと「数字に強くなる」という側面がある。道の駅の運営に関わっており、マーケティングデータのオープン化に取り組んでいる。客がどこから来ているか、来場者数、地域通貨の使途といったデータを、近隣のスーパーマーケットや商店と共有している。地域内で過度な競争をするのではなく、産学官金でデータという「ものさし」を共有し、地域企業の損益分岐点を下げていくためにデータを公開している。そうすることで省人化や共同購入による収益の安定化なども期待できる。経産省においても、このような地域共同プラットフォーム構想を示しており、過疎地域でのサービス供給の持続可能性を高め、地域住民の生活環境が改善されるとしている。こういった流れがデジタルでできるとよい。
- ・ 「数字に強くなる」というと、イベント開催時には、いかにイベントを開催するかより、「データをどれだけとるか」が問われる。例えば、花火大会を開催するとして、年齢層、独身、家族連れ、どこから来たか、リピーターか、広告のターゲットと実際に来た人との差はないか、その地域にどれだけお金が落ちたか、道の駅の収益がどれだけ上がったかなど、こうしたデータを取ることで次の年の花火大会をどうするかというスタートに立てる。以前と同じようにイベントを開催してしまうといったことがこれまであったかと思うが、データ共有により改善できる。
- ・ データがあることで地域での合意形成が図れる。企業、地域の方、自治体など立場がバラバラでも、合意形成をしていくときに、データという「ものさし」をもとに議論を進め

ることができ、こうしたことが特に重要となる。後期実施計画においても、リアルタイムでの海況情報発信や山形県地域公共交通情報共有基盤などが盛り込まれた計画になっており素晴らしいと考える。

- この計画で特に素晴らしいのは、「時代の潮流は自然界からの収奪を伴う限りない効率化を追い求めるものから、自然界との調和を前提に持続可能性を目指すもの」と記していること。デジタルは手段の目的化と言えるような効率化を目指してしまう呪いがあるが、この一文があることで本質から外れることなく計画が実行されると感じる。AI時代の到来を前に、先進技術は我々の本質を問うてくる。自然を先生としながら人間側が「数字に強くなって」真の豊かさと幸せを実感していく、そういう計画になっていると感じる。

### 【船山委員】

- 連合では、いわゆる春季生活闘争が始まったところ。昨年、業種によって違いはあるものの30年ぶりの上昇率の賃上げがあり、賃金はそれなりに上昇しているが、依然として物価上昇が続いており、実質賃金は前年比でマイナスとなっている。これを踏まえ、今年の春闘においても、物価上昇を上回る賃上げ、人への投資の拡大、人材確保、格差是正などに向けた取組みを進めているところ。
- 賃上げの環境整備の課題として、価格転嫁が様々な場面で言われている。原材料価格やエネルギー価格の上昇、賃上げに伴う労務費の上昇などを製品の価格等に反映し、賃金の引き上げの原資として、地域経済の好循環に繋げていく必要がある。今年も各都道府県において地方版の政労使会議が行われており、連合山形としても3月上旬には経営者団体との意見交換会を予定している。公労使ともに、価格転嫁や賃上げが適切に行われるべきであることを共通認識として、実現に向けて取り組んでまいりたい。
- 昨年、連合山形の調査機関が価格転嫁の実態調査を実施したところ、企業によって違いはあるものの、進んでいるとは言えない状況だった。特に人件費上昇分の価格転嫁が他の原材料価格の上昇分などに比べると低く、企業からは「必要性は認識しているものの、相手企業などがある関係から、価格転嫁は非常に難しい」といった声もある。県をはじめ、国と行政機関が連携しながら、企業への指導や支援策の充実をお願いしたい。
- 本県の人口がまもなく100万人を下回るという状況で、人口減少対策は喫緊の課題である。若者や女性が地元企業に定着し、また、今働いている方の生活が改善し、地域経済の好循環に繋げていけるよう、民と官、産、大学などの教育機関も連携して、様々な角度から人口減少対策に取り組むことが重要だと考えている。

### 【峯田委員】

- 近年の自然災害の頻発・激甚化に伴い、防災対応は極めて重要なテーマの1つになっている。防災対応を強化する上で、女性の視点は欠かせない。避難所におけるトイレの問題や授乳室の有無、妊婦へのケア、避難先における性被害防止やセキュリティなど、まだ改

善の余地はあると考える。重点テーマ7「大規模災害等に対応した地域防災力の向上」があるが、女性の視点や声を十分に反映させて進めていただきたい。

- 交通網の整備促進も重要である。本県の交通網の整備は大きく前進しているが、まだ途上にある。ここ数日の大雪に伴い、東北中央自動車道をはじめ、県内の主要幹線道路で断続的に通行止め等の交通規制が発生した。また、山形新幹線は丸2日間運休となった。これは尋常ならざることであり、こうした状況に慣れてはならない。
- 移住・定住の促進、二拠点生活の促進、インバウンドの推進、人口減少対策、交流人口の拡大、観光の振興、産業の発展、地域の活性化など、あらゆる地域課題を解決する上でベースとなるのは、交通網の整備であると考え。山形新幹線米沢トンネル（仮称）の実現や、山形・庄内両空港の滑走路の延長、高規格道路の整備促進などについて、議論を深めていくことが必要ではないか。

### 【森下委員】

- 昨年、日本へのインバウンドはコロナ禍前を遥かに上回り 3,600 万人を超え過去最高となったが、インバウンドの個人消費をドル建てで見ると実はそれほど伸びていない状況にある。政府の観光戦略も数より質にシフトしつつあり、地域における消費や関係人口の増加、地域の文化・自然の継承などに、いかに観光が力添えできるかに焦点が当たりつつある。今回の計画（案）は高付加価値やアクセシブルツーリズムを軸とした記載となっており、こうした観光の現状を非常によく捉え、的を射た内容になっていると思う。
- 山形は、農業などをベースとして、食・自然・文化の豊かさなど、観光資源が非常に多く、優位性のある地域である。高付加価値層はどちらかというと「本物」を求めるところがあるが、「本物」は都市部よりも地域・地方に残っており、高付加価値層をターゲットに呼び込むには、地方の方が強いはず。山形はそのポテンシャルが高いため、資源を生かし、消費に繋がるような体験型の観光コンテンツなどをいかに作っていくかが重要となる。
- また、そうしたコンテンツのPRについて、計画（案）の中には、高付加価値に強い旅行会社やランドオペレーターを通じてプロモーションを展開するという取組みがあるが、まずは山形を評価してくれる層がどこにいるのかを、データを活用してあぶり出す作業も必要ではないか。
- 参考として、高付加価値層のインバウンドに関して上手に取り組んでいるのが石川県の金沢であり、京都からインバウンドを誘引している。金沢の優位性は、京都よりも食が美味しく、歴史・文化・自然に関しても、京都と比べても遜色がないこと、そして何より京都と比較して安いことであり、これは山形に置き換えても十分に同じことが言えるのではないか。金沢における京都からの誘客は北陸新幹線の延伸によるところが大きいが、山形も東京、大阪、名古屋、札幌といった大都市からの空の便が十分にある。山形空港では国際線の誘致という話もあり、もちろんそれも重要だが、まずは第一歩として、日本にきているインバウンドをいかに大都市から誘引するかを目標としてはどうか。

- ・ 高付加価値な観光客の誘致や消費の促進には、面的な考え方が必要となる。将来的には山形県だけではなく、少し広範囲の東北エリアなどで連携し、それぞれの役割を担っていくと、観光産業がより強固なものとなるのではないかと。

### 【梁瀬委員】

- ・ 毎年のように災害や気候変動の影響に悩まされているが、今後もこうした事態が発生すると想定し、対応を進める必要がある。先日も新庄・大石田間で、高規格道路と国道13号線が雪害により通行止めとなり、渋滞が発生した。また、山形新幹線等も運休となり交通網が遮断された。災害時には、例えばテレビ画面や県庁のホームページ等でQRコードを読み込んで情報を得られるなど、県民だけでなく山形を訪れる人、訪れる予定のある人など、誰にでもわかるような情報発信の仕組みづくりが必要と考える。
- ・ インフラ整備の促進・事業化はより重要であり、一段と加速し、豪雪、雪国、豪雨のマイナスのイメージを払拭しなければならない。
- ・ 農業に関して、酷暑の影響で農産物が作れずにいる生産者もいる。そうした中、先日の米の新品種の発表は嬉しいニュースだった。米以外の農産物においても、新品種の開発や導入支援をお願いしたい。
- ・ 山形の農業の発展や地域の活性化には、東北農林専門職大学の存在は欠かせない。農業分野で連携するだけではなく、地域住民との交流も大事。
- ・ 政策の柱1の政策3「若者の定着・回帰の促進」では、交流や体験をより身近なものとし、学びの機会を充実することが記載されており、ターゲットも明確にされている。こうした情報が漏れなくターゲットへ行き届くと良い。また、企業の関わりとして、零細企業や小規模企業も参入しやすい仕組みをつくることで地域の活性化につながる。
- ・ 本計画を、県民にわかりやすく示していくことも重要。

### 【山上委員】

- ・ 移住を検討している方やその家族を受け入れる際のポイントとして、先輩移住者とのざっくばらんな交流が欠かせない。先輩移住者とのマッチングが上手くいくと、移住後も良き相談相手となり、スムーズな移住・定住に繋がっていく。後期実施計画（案）にも取り組みの記載があるが、移住希望者が移住前後で、生活面や仕事面などについて様々な相談ができるよう、移住コーディネーターや移住リエゾンの仕組みを構築することが重要である。
- ・ 移住者の受入れやきっかけづくりは、行政だけの仕事ではないと考えている。移住者を増やそうという意識が、一般住民の方に十分に浸透していないということも課題の一つだと思う。そのため、例えば移住フェアに行政職員だけではなく各コミュニティセンターの関係者も同行するなど、住民主体、地域全体で受け入れる、という意識の醸成が大切。
- ・ 移住希望者向けの体験プログラムについて、新たな体験プログラムやツアーを構築するのもよいが、実際やってみると、募集からアテンドまで、かなりの労力がかかる。そのた

め、既に地域にある催しに移住希望者が気軽に参加できる、といった仕組みが必要と考えている。受入れ側の負担を減らし、自然な形で迎え入れることが、その後にも繋がっていくと思う。このような視点も、計画の推進の際には取り入れていただきたい。

### 【吉野委員】

- ・ 過去の審議会においてアンコンシャス・バイアス改善などの視点で何点か発言したが、後期実施計画（案）に取り入れていただいた。
- ・ K P I として幸福度に関するものを取り入れてもよいのではないか。例えば重点テーマ4「デジタルの徹底活用による暮らしの利便性・産業活力の向上」の中に「県民の幸福度向上につなげていく」という一文はあるが、幸福度をどのように測っていくかについては言及がない。今後、K P I を設定していく際に、生活の満足度や、仕事の満足度、生活の質に関する指数、具体的には食や環境、人との繋がり、地域の文化を感じるなど、そうしたものを測る指数があってもいいのではないか。
- ・ 今年度、県の「やまがた Life ポジティブキャラバン」事業で中学校に訪問し、私は女性としてこういった活動をして前向きに山形で暮らしている、といった内容でプレゼンをした。終了後に女子生徒が駆け寄り、「やっぱり女性でも強く生きられますよね」と、そこだけを唐突に訊きにきた。詳しく聴くと、地域の中で女性として生きて、キャリアを形成していくことをあまりポジティブに考えられない、周りと比較して自分を低く見積もっている、といった内容で、地域の大人や環境の中でアンコンシャス・バイアスがどれだけ働いているか、彼女をどれだけ苦しめていたかを実感した。先日は厚生労働省から、昨年の小中学生の自殺数が過去最多であったという発表もあったところ。アンコンシャス・バイアスなどの感覚的な部分を変えることはなかなか難しいが、幸福度に関する指数によって、どうにか測れないかと考えている。
- ・ 山形県の中で働く人達の背中が恰好良ければ、今の子どもたちにも良い未来を見せられると考えており、県として、企業の働く環境づくりに挑戦していただきたい。昨今の経済情勢の中で中小企業は苦しい状況にあり、賃金の向上に取り組みにくいことは理解しているが、働く環境の方で改善できる部分があるのではないか。そしてそれを県からバックアップしていただきたい。
- ・ 県が実施したアンケートによると、県出身の学生と社会人の2人のうち1人は山形で働きたいと思っているものの、最終的には選ばない、という実態がある。企業の体制がいわゆるレガシーと言われる旧体制の組織づくりによるものであると長居されず、新しいアイデアや働き方を取り入れている企業には、やる気のある若手が集まっているとのこと。そういった企業の経営者の体質改善は、経営者の実体験によるところがあり、ミッション・ビジョン・バリューの持ち方なども1人だけでは考えられないと思う。何とかしたいがなかなか変えられないという経営者も多くいると思うので、そういった層を対象とした研修や、これからの時代の変化を見極める力を補うような機会を、県として提供していただき

たい。既に起業した方でも、これからの企業のあり方を改めて考える機会があってもよいのではないかと。

- ・ 何か新しい挑戦をした企業に対しては県から税制優遇など、人件費だけに限らないバックアップをしていく。それにより働き手にも賃金などの形で還元があり、山形県で働く大人の背中が輝いていき、地域の大人を見て、「こうやって山形を変えていける」と思えると、移住・定住や、若い人の働き口も増えていくのではないかと。

#### **【兼子会長】**

- ・ 12月に当審議会から実施計画の策定に向けた基本的考え方について提言した内容については、今回、県から提示された実施計画(案)にしっかりと反映いただいたものと思う。
- ・ 県におかれては、本日の委員の皆様からのご意見も踏まえ、引き続き計画の策定にあたっていただき、吉村知事が進める「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に向けて、挑戦の意識を持って、県民の皆様とともに、より良い県づくりを進めていただきたい。